



■ G&D 社

Guntermann & Drunck GmbH (G&D) は 1985 年に設立され、デジタルおよびアナログ KVM ソリューションの大手メーカーとしての地位を確立しています。

■ 事業内容

G&D の KVM 製品は、信頼性が高く、未来志向でフェイルセーフな IT アークテクチャのための堅実な基盤を構築します。航空交通管制、放送アプリケーション、オフシアプラットフォーム、エネルギー制御室、産業プロセス制御など、世界中の幅広い分野の大手企業は、G&D の KVM システムに依存しています。

<https://www.gdsys.com>

Introduction

Toyota Center の大規模改修で実現した次世代運用環境

トヨタ・センターの大規模な施設改修プロジェクトの一環として、ヒューストン・ロケッツは、ライブイベントの運営を支えるメディア、制御、そして制作システムへのアクセス環境を維新しました。

G&D の KVM テクノロジーを中核に構築された新しい環境は、NBA の試合、コンサート、e スポーツ大会、その他さまざまなライブイベントが開催される多用途な会場において、重要なシステムやリソースへの高速かつ信頼性の高い低遅延アクセスを実現しています。



The Challenge

会場内の各所にシステムやワークステーションが分散配置されたことで、ヒューストン・ロケッツは、必要な場所からいつでも重要なメディアソースや制御システムへ即座にアクセスできる環境を確保する必要がありました。ライブ制作の現場では、遅延や複雑な操作、一貫性のないパフォーマンスは許されません。

そのためロケッツは、直接接続と同等の応答性を実現しながら、より柔軟で現代的なインフラ構築を支えることができる KVM システムを求められていました。また、複数の制作業務や、エンジニアリング業務に携わるオペレーターが快適に作業できるよう、高い信頼性、優れた映像品質、そして低遅延も不可欠な要件でした。

このプロジェクトは、トヨタ・センターで進められていたより大規模な技術維新計画の一環でもありました。従来のアナログインフラは柔軟性に欠けており、進化し続けるメディアワークフローを効率的に管理するうえで大きな制約となっていました。

The Solution

ヒューストン・ロケッツの技術チームは、すでに KVM マトリックスアーキテクチャに関する豊富な知識と経験を有しており、どのようなソリューションが必要かを明確に理解した上でこのプロジェクトに取り組みました。

G&D への関心は、他の NBA チームの技術者との意見交換や、複数のベンダーソリューションを対象とした綿密な評価を通じてさらに高まりました。

評価プロセスを通じて、G&D は製品性能の高さだけでなく、チームの迅速かつ対応においても際立った存在でした。

このソリューションは、相互接続された 2 台の ControlCenter-Compact マトリックススイッチを中核として構築され、集中管理と高い柔軟性を両立した KVM 環境を実現しました。

メディアサーバーや制御システムは中央に統合される一方で、コントロールルームおよびエンジニアリングエリアのオペレーターワークステーションからは、必要なリソースへ高速かつ安定してアクセスできるようになっています。

このアーキテクチャは、シングルヘッド構成とデュアルヘッド構成の両方のワークフローに対応しており、ライブイベント運用に求められる超低遅延性を提供します。



導入成果

現在、ヒューストン・ロケッツは、チームが必要とする場所から必要なメディアリソースや制御システムへアクセスできる、最新の KVM 環境を構築しています。

このシステムにより、日常業務においても、高速な切り替え操作、安定したパフォーマンス、高画質な信号伝送が実現され、効率的なオペレーションを支えています。

オペレーターにとっても、システムはシームレスかつ高い応答性を備えており、必要な調整を迅速に行いながら、途切れることのないワークフローを維持することが可能になりました。

プロジェクト概要

利用環境：

NBA 公式戦、コンサート、e スポーツ大会、各種ライブイベント

システム構成：

ControlCenter-Compact 2 台

KVM GRID 接続：

光ファイバー

端末機器：

VisionXS CPU、VisionXS CON

対応ワークフロー：

シングルヘッドおよびデュアルヘッド運用

運用エリア：

コントロールルーム、エンジニアリングルーム

主要要件：

信頼性、低遅延、高画質

